

気象業務百五十周年記念式典
国土交通大臣 式辞

本日ここに天皇陛下の御臨席を仰ぎ、気象業務百五十周年記念式典を挙行できますことは、この上もない喜びであり、気象業務を所管する閣僚として、心から御礼申し上げます。また、公務ご多忙中にも関わらず、多数のご来賓のご参列を賜りましたことに深く感謝申し上げます。

明治政府が近代化に向けた諸制度を整備する一環として、気象庁の前身である東京気象台が明治8年6月に気象業務を開始しました。本年は、これより150周年に当たる極めて意義深い年であります。この間、気象庁においては、災害の予防、交通の安全の確保、産業の興隆などに寄与するため、気象予測の高度化や迅速な地震・津波に関する情報の発表など、気象業務の充実に邁進してまいりました。これもひとえに多くの関係者のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。

近年では災害の激甚化・頻発化や気候変動への関心の高まりから、気象庁の役割への期待はますます大きくなっていると認識しております。気象庁においては、静止気象衛星やスーパーコンピュータ、AI技術など最新の科学技術を駆使し、線状降水帯や台風などの予測精度の向上や気候変動の監視、地震及び火山の観測能力の更なる強化に鋭意取り組んでいるところです。加えて、自治体の事前防災や災害時対応を支援するため、気象庁職員が直接自治体に赴いて気象や地震に関する解説を行うほか、地域の気象防災の専門家を気象防災アドバイザーに任命して活用を図るなど、きめ細かな対応を行っているところです。

本式典におきましては、150年に^{わた}亘る気象業務の発展に貢献いただいた先人の取組に、ご参列いただきました各界の皆様と一緒に思いを馳せるとともに、気象業務の推進に顕著な功績を挙げられた方々を表彰します。本日を大きな節目として、国土交通大臣として、これからも気象業務の一層の前進を図るべく全力で取り組み、国民の皆様のご期待に応えてまいりますこととお誓い申し上げ、式辞といたします。

令和7年6月2日
国土交通大臣 中野 洋昌